

子どものかかりつけ医がいなくなる？！

緊急メッセージ 日本の小児医療がピンチです！

2020年9月7日

公益社団法人 日本小児科医会

2020年、新型コロナウイルスが人類を襲いました。

人類にとって幸運なことこの疫病は子どもたちにとっては普通のカゼよりも軽い病気であることがほとんどでした。これまでの世界での経験がこのことを証明しています。

しかし、わが子が感染することを恐れる当然の親心による受診控えによって子ども達や小児医療は深刻な影響を受けています。

国立成育医療研究センターのアンケート調査では、72%の子どもたちに何らかのストレス反応が現れ、のびのびとした成長が妨げられている状況です。また、小児医療の現場も子どもたちの心身の健康の確認と対応が急務であると感じています。

私たち小児科医は日本中の子どもたちを病気から守り、ご家庭の幸せのために少しでも力になりたいと考えて小児医療を志しました。

しかし今、私たち小児科医が親子に出会う機会が極端に減ってしまい、ご家族の力になることが出来なくなっています。

そして外来患者数の激減が続いていることで、全国の小児科診療所が経営危機に瀕しています。このままでは日本から身近なかかりつけ小児科医が消えてしまいそうです。

新型コロナがおさまっても、街から小児科医が減ってしまうと小児救急、園医学校医、乳幼児健診など、地域の子どもたちへの医療保健行政も回らなくなります。

事態は深刻です。

私たち日本小児科医会は国に向けて緊急支援の要望を提出しました。

子どもたちを救わねばならない小児科医がいなくなる前に、かかりつけ小児科医が本来の役割を果たす前に街から消えてしまうことのないように、ぜひ現状をご理解ください。

保護者の皆様からお声をあげていただき、私たち小児科医を応援していただくことを心よりお願い申し上げます。